

第2回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第2回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成18年6月6日 午後3時00分から午後4時40分まで
3	会 場	堀金総合支所 301・302 会議室
4	出席者	白澤会長、浅川副会長、小口委員、尾台委員、唐澤委員、唐沢委員、佐々木委員、武井委員、林委員、藤岡委員、牛山委員、加々美委員、小松委員、
5	市側出席者	黒岩総務部長、大内行政改革推進室長、堀内同室係長、平林同室係長、細川まちづくり推進課長、牧石広報広聴係長、山田文書法規担当係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	2人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成18年6月13日
協 議 事 項 等		
1	会議概要	
	(1) 開 会	
	(2) あいさつ(白澤会長)	
	(3) 議 事	
		協働への道程と課題について 広報と情報公開について 市民と行政が協働する市政運営について
	(4) その他	
	(5) 閉 会	
2	審議概要	
		協働への道程と課題について(事務局より説明) 委 員：現在の安曇野市の協働はどのような段階にあると認識していますか。 事務局：今までの5地域の取り組みや背景に違いがあるので、一概にどの段階とは言えないのですが、協働という意識は広まりつつあると考えています。 委 員：区では行政のあらゆる場面で連携しながら事業を行っています。市の職員も地域間での人事異動が行われるようになったことから、異動先の地域の実情をよく知る必要があります。
		広報と情報公開について(事務局より説明) 委 員：区の活動を通じた協働は、市、区、区民を結んだ線の協働です。これからは、幅広い情報提供により協働しやすい環境を整備し、面での協働に発展させる必要があります。

委員：線の協働から面の協働に広げていくためのシステムを構築し、その中で、行政職員はコーディネーター役になる必要があります。

会長：インターネットの普及によりホームページから情報を得る人が増えています。一方で、IT弱者と言われる方も当然おいでになる訳ですが、そうした状況での情報提供・伝達のあり方についてはいかがでしょう。

委員：インターネットの場合、その普及率などをしっかり掴んでおく必要がありますし、そうした手段に馴染めない方への対応も考えるべきです。広報紙についても、読み手のことを考えて、読みやすい広報紙づくりを心がける必要があります。

委員：安曇野市の区への平均加入率は80.4%ですので、区への未加入者の増加は、協働・情報提供を考える上での問題となります。

委員：区への未加入の問題の解決は、転入時の窓口である市と区長さんとの関係をどのように持つかということだと思います。

委員：区への加入率が80.4%ということになると、残りの19.6%の世帯には広報紙は配付されないということですか。

事務局：それぞれの地域で、指定箇所への配置、郵送、新聞折込などの方法で対応しております。今後、統一的な配付方法について具体的な検討を進める予定です。

委員：配付方法の検討にあたっては、コスト削減も重要な要素です。

市民と行政が協働する市政運営について（事務局より説明）

事務局：協働という考え方を基本に行革を進めるにあたって、市民と行政の役割を明らかにする「役割分担」という考え方を明確にしてよるしいでしょうか。

委員：役割分担ということは昔からあったことです。しかし、中央集権が進むにつれ、行政依存の傾向が強まり、薄れて行ったと言われていています。しかし、それでは、厳しい財政下での行政運営は成り立ちません。「安曇野市のために市民は何ができるか」ということで意識改革を図っていく必要があります、そのためにも、ある程度、役割分担を決める必要があります。

委員：全てを行政に頼みっぱなしという時代は終わったように思います。しかし、「役割分担」という整然とした表現では、市民として受け入れ難いものがありますので、市民との話し合いの場を設けて、一気に行かず、時間をかけて進めていただきたいと思います。

委員：市民、市民生活ということになりますと、当然のように権利と義務ということが出てきますが、これを協働という枠組みの中で、どう考えていくかが大切です。

役割分担とは、裏を返すと「責任の所在」ということになります。これを明確にしておかないと、良かれと思ってやったことが裏目になったりしますし、広がるべきものが、逆にすぼまってしまいます。

委員：協働を進めるにあたっての行政の役割は、インフラの整備だと思います。場所の提供とか財政支援です。ただ、やり過ぎは駄目ですから、市民に対しては「こ

ここからはやってください」という、ガイドラインを示すべきだと思います。

会 長：以上をもちまして本日の会議を終了します。